

もりしたまさゆき
○森下真行、中村譲治*、堀口逸子*、筒井昭仁**、藤田美由紀***

広島大学歯学部口腔健康発育学講座（予防歯科学）、*NPO 法人ウェルビーイング、

福岡歯科大学予防歯科学講座、*安浦町役場保健福祉課、

【目的】

本研究は、地域における歯周疾患予防事業を実践するために MIDORI モデルが有効かどうか検討することが目的である。広島県安浦町において実施されている「1855（いい歯ゴゴゴ）大作戦」と名づけられた歯周病予防プログラムについて、昨年の本学会では第6段階の「実施」までを報告したが、今回はプロセス評価について報告する。

【対象および方法】

安浦町において 2000 年度に実施された健康教育プログラムについて、MIDORI モデルに基づきプロセス評価を行った。今回、プロセス評価の対象となったプログラムは 1999 年に安浦町において住民参加のもとに行動・環境診断によって決められたもので、30 代女性をターゲットにしたものである。表 1 に 2000 年度に実施されたプログラムを示す。プロセス評価はプログラムの内容のほか、実施回数、参加者数など実施状況、プログラム実施中に行ったアンケートやインタビューなどの結果を利用して行った。評価に基づきプログラムの見直しを行い、必要に応じて修正を行った。プログラムの評価および修正は、町の保健婦、地元の歯科医師、歯科衛生士が参加する月 1 回の勉強会の中で行った。

【結果】

<歯間清掃用具の使用>

1) ショートプログラム

保育所、幼稚園の保護者会や参観日などにおける健康教育プログラムは、町内に 6 つある保育所のうちの 3 保育所と 2 つある幼稚園で実施した。主に歯周病に関する知識の普及と、ひよこ歯科健診の PR を行った。歯肉炎および進行した歯周炎を有する歯肉の写真を貼ったカードを配布することが参加者の関心を高め、歯科衛生士と参加者の交流を深めるきっかけを作るのに役立った。2000 年度の参加者は、保育所が 98 人、幼稚園が 85 人であった。評価の結果、2001 年度も継続して実施することになった。

2) ロングプログラム

ひよこ歯科健診は、3 回シリーズのものを 6 回実施した。プログラムの内容は、1 シリーズ目が歯科医師による母子の歯科健診と健康教室で、健康教室では「歯の大切さ」と「歯周病」についての知識を伝えること、「自分の歯をいつまでも残そう」という信念と、「フロスを使ってみよう」という態度を持ってもらうことを目的とした。2 シリーズ目では、知識の復習とフロスの技術習得を目的として個別指導を行った。3 シリーズ目ではさらに技術指導を行い、フロスの気持ちよさを体験してもらうことなどを目的とした。2000 年度のひよこ歯科健診の対象者は 105 人であったが、参加者は 1 シリーズ目が 52 人、2 シリーズ目が 37 人、3 シリーズ目が 26 人であった。1 シリーズ目の受診率は 49.5%であり、2 シリーズ、3 シリーズと回を重ねるごとに受診率が低下していた。そこで、受診率を向上させるための対策について検討し、広報でひよこ歯科健診の宣伝をさらに充実させること、1 シリーズ目にフッ化物塗布を実施するこ

と、1歳6か月健診に参加した母親にひよこ歯科健診のPRをすることなどのプログラムの修正を行った。
また参加者の希望により、開催時刻を午前中に変更することが決められた。

3シリーズ目が終了してから1か月後にアンケート調査を行ったところ、フロスを継続して使用している者は23人(88%)であった。フロスを継続して使用する者の割合を低下させないために、ひよこ歯科健診の3回シリーズが終了した参加者について、6か月後に再度ひよこ歯科健診の1シリーズ目に参加してもらい、歯科健診とフロス使用のチェックを行うこととした。

ひよこ歯科健診に参加した感想をアンケートにより調査したところ、「子供と一緒に参加できてよかった」、「デンタルフロスを使うときっぱりして気持ちが良いことがわかった」、「フロスの実技指導により、爽快感を体験できたことが効果的であった」、「また参加したい」など良好であり、強化要因が有効に働いていることが確認できた。指導で使用したデンタルフロス(ウルトラフロス™)が、特定の歯科医院以外では入手できないという実現要因に問題があることが判明した。

<定期健診の受診>

1) 広報の充実

定期健診の受診を促すため、安浦町が毎月発行している広報誌「広報やすうら」に260文字程度の記事を連載した。テーマは「1855 大作戦」、「虫歯と歯周病は生活習慣病?」、「年だから歯が抜けるのは仕方がない?」などで、保健婦、歯科医師、歯科衛生士が順番に担当して2000年12月から掲載している。次年度も継続することが決められた。

2) 歯科医師、歯科衛生士による勉強会

安浦町保健センターにおいて、保健婦も参加して2000年5月から毎月第4木曜日に開催された。勉強会は定期健診の受診を促すためのパンフレット作成や、広報の充実が目的であったが、プロセス評価やプログラムの修正などについても検討した。町内の歯科医院における定期健診の実施については、十分な対策がとられていないことが明らかとなった。

【考察】

ヘルスプロモーション・プログラムは、「プロセス」「影響」「結果」の3つの段階を少なくとも1つ用いることによって評価することができる。プロセス評価では、実行されているプログラムそのものが評価の対象となり、プログラム開始の早い時期にそれを修正することができる。安浦町で実施されたプログラムでも、いくつかの修正がなされた。プログラム参加者の評価は高く、次年度も継続されることとなった。

問題点として、定期健診の受診についての取り組みが十分でないことが明らかになったが、この点については町内の歯科医院の診療体制にも関連しており、今後さらに検討してゆくこととなった。

表1 プロセス評価の対象となったプログラム

歯間清掃用具の使用	定期健診の受診
1) ショートプログラム 保育所、幼稚園の保護者会、参観日などを利用し、 20分程度の健康教育プログラムを実施	1) 定期健診の受診のきっかけづくりのために 町が広報を充実させる
2) ロングプログラム ひよこ歯科健診*を3回シリーズで行う	2) 歯科医師、歯科衛生士による勉強会を開き パンフレット作成や広報の充実について検 討する

*2歳6か月児とその母親を対象とした歯科保健事業